

大館の歴史散歩

戊辰戦跡を
歩く ⑩

葉隠の古武士 田村乾太左衛門(下)

田村乾太左衛門昌宗(以下昌宗と記す)の性格は豪直である。それは「醍醐忠敬手記」「鍋島直正公伝」「前川清一郎伝」「仙台藩記」など、奥羽戊辰戦の諸記から酌みとれる。仙台藩や秋田藩との交渉では強気一筋の対応であるし、戦闘でも直線的攻撃一路である。剣は柳生流。小説「一族再会」(江藤淳)でも、昌宗は古武士の風格を残す豪直一本槍の人物として描かれている。もともと、その後半生については、変節があったとみているようである。

昌宗は、戊辰戦後明治二年には佐賀に帰っていた。新政府は軍制改革を進めていたが、昌宗は奥羽戊辰戦で率いた大隊を解

兵せず、「軍務局の軍制改革を監視し、政府が改革を成し得ぬときは鍋島上総を推して兵を挙げ、佐賀城を占拠し、佐賀の元気を天下に掲げる」と豪語した。佐賀藩首脳は、これを放置しておいては一大事と、近侍長で新陰流の深川亮蔵を派遣し、その意を糾している。

「戊辰戦役賞典録」(大蔵省所蔵)によると、昌宗は四百両の賞祿を受けている。戊辰戦で活躍した代表的人物の賞祿は、次のとおりであった。

〈十萬石〉島津久光・忠義(鹿児島)、毛利敬親・廣封(山口)
〈四萬石〉山内豊信・豊範(高知)
〈二萬石〉鍋島直正(佐賀)、佐竹義堯(秋田)〈二萬石〉西郷隆盛(千五百石)大村益次郎(千石)板垣退助(八百石)澤為量、大山格之助(六百石)山県有朋、前原一誠(四百五十石)前山清一郎(二百五十石)桂太郎(三百両)西郷従道。

昌宗は、明治六年(一八七三)に正六位陸軍會計一等副監督、同八年に東京鎮台監督課長となる。この間、明治七年二月十三日には、昌宗の出身地である佐

賀において、征韓論に敗れて下野した前参議江藤新平を担ぐ征韓党と、初代秋田県令島義勇を首領とする憂国党が手を結び、反政府の挙兵を企てた。いわゆる佐賀の乱である。

昌宗は佐賀の乱の際には政府側にいた。「一族再会」にみられる、江藤淳が昌宗の変節をいぶかる原点はここにあるようである。先にみたように、昌宗は戊辰戦後も鍋島上総との結び付きが強く、上総は江藤、島らと一線を画していた。そのため昌宗は、江藤、島らが同郷人であったものの、その反政府挙兵に対して冷静でいられたのではなからうか。佐賀の乱は、内務卿大久保利通の現地赴任・直接指揮により、一カ月で鎮圧された。

明治十年、江藤と同じく征韓

論で下野した西郷隆盛を盟主と仰ぐ私学校徒が、草牟田の火薬庫を襲撃し、この事件を契機に西南の役が起こった。昌宗はこのとき、下関運輸局長(軍務局)として功ありと「国民過去帳」にある。これにより、翌年六月二十八日に勲四等に叙せられるが明治二十五年一月二十五日、願により官を免じられている。

富国強兵策に基づき、軍制の近代化を強く推進する政府の中にあつては、古武士のような性格の昌宗は住みにくかったのかもしれない。その後の昌宗の足跡は知ることができなかった。ただ「明治四十二年十二月十三日特旨を以て従五位に進めらる。是日卒す」(国民過去帳)とあるだけである。

市役所史跡探訪会

募集中です!

教育改革モニター

文部省では教育改革モニターを募集しています。モニターは、同省から依頼されるテーマについて、意見・要望を文書でまとめることが仕事です。希望者は早めにご応募ください。

〈応募資格〉20歳以上で教育改革に関心のある人、ただし議員や公務員(校長、教員を除く)、行政相談員は応募できません。

〈任期〉2年

〈締め切り〉2月4日(月)

〈申し込み及び問い合わせ〉

秋田市山王4丁目1-2

県教育庁 幼児・養護教育課

☎0188-603134



佐賀の役戦死者慰霊碑

私の本棚

中央図書館新着図書

『ツルの舞い村』

河村 宜樹 著 新日本教育図書

山口県八代盆地——人口わずか千人あまりの村に今年もまたナベヅルがやってきた。

ツルの生態系破壊や環境汚染を気づかいながら観察を続ける、ナベヅルの里に住む子供たちの研究記録。



◇破軍の星(北方謙三) ◇小説家のメニュー(開高健) ◇もっと馬を! (吉永みち子) ◇山茶花はなぜサザンカか(外山滋比古) ◇あした天気になあれ(海老名香葉子) ◇杭州菊花園(陳舜臣) ◇親父の存在(安田武) ◇ガンを生きる(佐々木妙子) ◇失われた声(加東祥子) ほか

◇イレブン日記(山本静夫) ◇アラグマ又三郎(畑山博) ◇吉野ヶ里遺跡をほる〔ポプラ社〕ほか

1月のテーマ関連図書コーナー

『スーパーヒーローたち』

親子読み聞かせ会

毎月第1金曜日(午後2時30分から)

中央図書館の休館日

1月20日、24日、2月11日、17日